

「事業名:福島復興知学の構築・展開・加速事業」 2019年度補助事業の実績・成果

東京大学 連携市町村:楡葉町、飯舘村、広野町、いわき市、南相馬市

現地拠点:双葉郡楡葉町下小塙麦入31楡葉町まなび館2階、相馬郡飯舘村佐須滑87(認定NPO法人ふくしま再生の会事務所内)

事業のポイント

1. 東京大学内8部局が協力して、福島復興知学講義のカリキュラムを作った。さらに、教科書の作成計画を作った。
2. 飯舘村・楡葉町等の浜通りの東大拠点を整備した。
3. 復興知事業の国際的認知度の向上を目指した国際ワークショップや国際交流事業を実施した。

今年度の活動実績

①福島復興知学講義と教科書作成の準備:

福島県浜通りでの教育研究活動で得た知見を体系化する福島復興知学講義のカリキュラムを作成し、2020年度から開始する準備をおこなった。浜通りの東大拠点を整備することで、フィールドワークの準備を行った。さらに、この講義の内容をまとめた教科書を作成する準備を行った。

②国際化へ向けた取り組み:

2019年度の事業で整備した浜通りの東大拠点を活用して、国際ワークショップを開催した。このワークショップには、スペイン、スウェーデン、スイスから海外研究者を招致した。また、日本人学生と日本に留学する海外留学生もワークショップに参加し、多様な観点から復興知に関する議論を深めた。

復興知事業等でこれまで作成した日本語資料を多言語化する取り組みとして、資料の英語化と中国語化を実施して、海外への情報発信の基盤を作った。



今年度の成果

①復興知に関連する新しい学問領域の創成へ向けた着実な歩み:

本事業に参加する大学・研究機関が蓄積してきた復興に関する多様な知識・ノウハウを体系化して復興知学を構築するための基盤を作った。

②国際化へ向けた取り組み:

海外からの研究者、日本の大学で学ぶ国内外の学生が福島の復興に関する議論を深めた。この活動を通じて、復興知事業を世界にアピールすることができた。

図: 浜通りの東大拠点で開催した国際ワークショップの様子。国内外から17名が参加。また、地元自治体、地元のNPO、およびイノベーションコースト構想推進機構からも多数の参加者が集まった。